

情報活用能力の育成例 【情報活用の実践力】
【情報の加工】

学 年	小学校 第4学年	時数	7時間
単元名	学級新聞を作ろう		
教科・領域	国語科		
使用ソフト	キューブきっず（キューブワード）		
目 標	自分の伝えたい内容が正しく効果的に伝わるように，見出しやレイアウトに気を付けながら学級新聞を書くことができる。		
学習内容	学級でがんばっていることや楽しんでいることなどについて，取材をしたことを基に，学級新聞を作成する。だれに読んでもらうのか，どんな内容にするのか，新聞の形式や作り方をどうするかについて考える。また，取材したことの中から必要なことを選んで記事にする。最終的に見出しを工夫したり，レイアウトを考えたりすることで効果的に伝わる学級新聞を作ることができるようにする。		
4 時	<p>コンピュータを使って新聞作りをする。</p> <p>1 あらかじめ決めておいた新聞名，一つめの見出し，一つめの記事，写真を「かんたんシート - 新聞」を使って順番にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字入力の説明（入力の仕方，文字の大きさの変え方，色の変え方，フォントの変え方） <p>2 隣同士で作った内容の見直しをする。</p> <p><見直すときに気をつけること></p> <ul style="list-style-type: none"> 文の最後が「です」「ます」で終わっているか？ 習った漢字が使っているか？ 読みやすい文か？ <p>3 修正したり，できていないところを作る。</p> <p>同じような流れで，さらに2つの記事を入力する。（合計3時間分で新聞を完成させる）</p> <p>-----</p> <p>指導上の留意点</p> <p>見直しの際に，正しい内容であることだけでなく，読みやすい文章かどうかも確かめさせるようにする。（常体と敬体の区別，既習漢字の使用など）また，内容や見出し，画像の使い方などを互いに確かめさせることで，受け手に対して見やすく分かりやすい内容になっているか見直し，修正させるようにする。</p>		
評価方法について	<p>正しい内容を適切な表現で文章にすることができるかを，記事の内容や完成した新聞からつかむ。</p> <p>受け手に分かりやすい表現がされているかを，完成した新聞の「見出し」や「レイアウト」，「文字の大きさ」，「文字の色」などからつかむ。</p>		